

社会教育委員の御意見

- 若いコーディネーターが自分も子どもになった視点で主体性を促したのは良いこと
- 実行委員の学年が思っていたより低く驚いたが、しっかりと自分の役割を果たせていて感心した
- 子どもたちが楽しく活動しているのを見て、実行委員会でも楽しみながら進められたのだろうと感じた
- 子どもの時に経験したことを大人になって自分が運営する側という循環がこの事業を通してできれば良いと思う
- 子どもが地域をつなげる接着剤の役割を果たして地域づくりにつながっていく姿が感じられてモデル事業として素晴らしい形だと感じた
- 大人を地域活動に囲い込むことも必要。特に大勢集まるイベントで大人と子どもが一緒に楽しめるバケツリレーはとてもいい企画だと思った
- ▲子どもの父親の参加が少なかったように感じた。そのような人をどう巻き込めるか
- ▲実行委員の周知につながるので、実行委員会の活動経過のビラはもっと大々的に掲示しても良かったと思う

総合教育会議での御意見

質問	回答
大人をどう巻き込んでいくか、コーディネーターやサポーターなどの協力者をどう見つけてくるかが課題だが、案はあるのか。	<p>・コーディネーターやサポーターに、地域協働各校への参画のハードルは高くないことを認識してもらうことが必要</p> <p>・特別なスキルや資格を持っていなくても、子どもの主体性を大事にできる方であればコーディネーターを担うことはできると考える</p> <p>・活動内容は子どものフォローとしてサポーター募集のチラシの全戸配布等で呼び込んだ</p>
コーディネーターとサポーターの役割をどう切り分けたいと思うか。	<p>(コーディネーター)</p> <p>・コーディネーターとサポーターの役割は明確に分担しなくてもいいとは思っているが、スタッフをまとめる人がいないとやりにくい</p> <p>・学生団体Enから参加した3名は意思疎通がしやすかったが、サポーターにはどこまでお願いしたいかわからなかった。1人リーダーを立てて他は横並びだとやりやすいのではないかと</p> <p>(サポーター)</p> <p>・自身は3～5回目の実行委員会に参加したので、1・2回目の前提が分からず、コーディネーターとサポーターで役割分担があることもあまり認識していなかった</p> <p>・ロールモデルのような形でコーディネーターが柱として立つと良いのではないかと。</p>
コーディネーターとサポーターは、これまでにアクティブラーニングの指導を受けたことがあるか。また、今回の活動に子どもの頃の経験が生かされたことがあったか。	<p>(コーディネーター)</p> <p>・アクティブラーニングは分からない</p> <p>・所属していた生徒会で体育会の競技を企画したことがある。その時にやっていたことを参考にし、小学生だったらどう道筋を示してあげたいかを考えた</p> <p>(サポーター)</p> <p>・アクティブラーニングは未経験</p> <p>・子どもの頃ではないが、7月に行われた玉川学区の防災キャンプで実行委員長を務めた経験は活かせたと思う</p>
今回、子どもが主体的に参画するためには何が一番大切だったか。コーディネーターやサポーターなど、年齢の高い地域の方との間にフックッションとして身近な大人がいて、子どもが話しやすかったということは想像している。	<p>(まちづくり協議会)</p> <p>・老上は次世代をいかに育てるかというところを大事に取り組んでいる。知識を伝えて一緒にやっていきたい</p> <p>・新興住宅街に住んでいる若い世代の方に地域活動に参加してもらい、次世代に継いでいけるようにしたい</p>

《総評》

- ・子どもと一緒に活動することで大人も若返って楽しみながら防災の意識を高めることができた
- ・地域協働各校の課題に対して仮説を立てて取り組み、現地視察も踏まえて一定の効果があつたと思っている
- ・「地域版ESD」の土台は平成10年度からの地域協働各校の取組であり、これは草津市の誇れる教育施策である。「地域が人を育て、人が地域を育てる」という言葉があるが、「地域版ESD」はまさにその取組。教育がまちづくりに広がるものであると感じている
- ・今までの地域協働各校の取組の限界を受けた中で「ESD」の考えを取り入れて「地域版ESD」のモデル事業を展開されたが、今後14学区に、生涯学習課の伴走支援も行いながら広げてほしい
- ・コーディネーターやサポーターをどう集めるかが課題。コーディネーターは地域コーディネーターが各校に配置されているので「地域版ESD」にもかかわってもらうことも一案である